

おはようございます。第二礼拝へようこそ。日曜日の朝には、2つの礼拝があります。一つは、毎週の「聖書預言・アップデート」で、ライブ配信しています。続いての第二礼拝は、「聖書の学び」で聖書を、巻ごと、章ごと、節ごとに学んでいます。現在「テモテへの手紙第二」で、今日の聖書箇所は、第二テモテ4章6から8節です。一緒に、聖書のその箇所をお開き下さい。その間に「預言・アップデート」とライブ配信に関して、少しだけお話ししたいと思います。”JDFarag.org”のウェブサイトが発生した、技術的な不具合に関してです。多くの方がご不満であられること、また、複数の方がご立腹であることを存じています。皆さんが、どうかどうか私たちのためにお祈りくださいますよう、謙虚にお願いします。敵は特に、「預言・アップデート」が配信されることを望んでいないので、霊的な戦いが桁外れに激しいことをご理解ください。その点で、皆さんの祈りを切望しています。私たちの素晴らしい IT チームは、接続すれば簡単に全機能にアクセスできるサイトになるように、疲れ知らずで熱心に働いています視聴者の皆さんにクローズドキャプション（字幕）を提供できるように、特に祈りくださいそれが特に聴覚障害者の方にとっては重要問題であることは承知しています。今取り組んでいますので、お祈りを願います。またそれに加えて、ダウンロードと共有機能、テレビ放送が可能となるよう祈りください実際に、自宅交流や聖書勉強会、ホームチャーチをされていて、テレビで「預言・アップデート」や「聖書の学び」を活用されているオンラインメンバーも多くおられます。もうまもなく完成します。今作業中です。皆さんのご忍耐に感謝いたします。また、主の御心なら、保存済の全動画を新サイトに移行したいと考えています。また、文書版（文字起こし）も同様です。新サイトで、YouTube 同様に倍速変更機能が欲しいというご要望を、たくさんいただいて、ちょっと笑ってしまいましたちょっと気になりました。なぜならそれは、私の話し方が、遅すぎるということですから、早く見終えようと、動画を1.5倍速や2倍速にしてご覧になっておられる方が何人もいるんじゃないでしょうか。分かりませんが。私たちのチームが、”あなたのためだけに♥”作業していることを知っておいてくださいとにかく、私たちは、ライブ配信は続けていきます。これは「預言・アップデート」だけの話です木曜の夜の「聖書の学び」と、日曜朝の第二礼拝の説教「聖書の学び」は、YouTube と Facebook で全配信します。「預言・アップデート」についてのみ、話しています。「預言・アップデート」のみ、イントロダクションと概要説明だけを配信します。特に新規登録者の方は、ライブ配信を終了する前にJDFarag.org にアクセスして下さるのを願っています。実際には、最初から”JDFarag.org”でご覧になるのをお勧めします。そうすれば、中断なく、検閲不可の完全版「預言・アップデート」をご覧になれます。主の御心なら、できる限り多くの人にメッセージが届くよう、YouTube や他のソーシャルメディアのプラットフォームにもできる限り留まるつもりです。しかし、悪い兆しがあるのです。今は、「預言・アップ」だけが検閲されていますが、まもなく「聖書の学び」が検閲される可能性があります。その準備はできていますが、できる限り留まるつもりです。そういうわけで、再度皆さんのご忍耐に感謝します。御言葉に入りましょう。「テモテへの手紙第二、4章6節から8節」です。先週は、5節まで学び終えました。可能な方は、ご起立願います。ご無理な方は座ったままで結構です。私が読みますので、ついてきてください。オンラインの方も、同様についてきてください。使徒パウロが、聖霊によってテモテに手紙を書いています。6節から、

テモテへの手紙第二 章6節から8節

「私はすでに注ぎのささげ物となっています。私が世を去る時が来ました。」—6節—

「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のを走り終え、信仰を守り通しました。」 -7 節-

「あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。」 -8 節-

あ~~~~ほ~~~~祈りましょう。鳥肌ものですね？

主よ、感謝します。この御言葉は、多くの人にとって親しみある一節であり、多くの人にとっての友さえあり、大きな励ましです。主よ。今日、私たちの目の前にある御言葉の中の箇所を通してあなたが私たちの人生に語りかけてくださることを受け取るため、今聖書を開いていますあなたの教会である私たちに、御霊が語られることを見る目、聞く耳、受け取る心を与えてくださいますように。私たちは聞く耳を持ちます。主よ、お語りください。あなたのしもべが聞いています。イエスの御名において、アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。今日お話ししたいのは、多くのクリスチャンが、教会携挙が間近だと感じているということについてです。先週、この節を教える準備をされていて思ったのですが、それは、子供のような期待感ですね。後部座席に座っている幼い子のようです。「もう着いた?」「いや、まだだよ。」「もう近い?まだ着かないの?まだなの?」「まだだよ。」「3秒後にまた、「もう着いた?」「いやまだだよ。3秒前に聞いたばかりじゃないの。まだだよ。」「しかし、"まだ?"と何度も問いかける幼い子供のような、ワクワク感と期待感です。告白しなければなりません、この箇所を本当に楽しみにしていました。繰り返しますが、この節に織り込まれていることへの期待感ゆえに、この御言葉は多くの人に好まれ、友でもあり、大きな励ましの源なのです。私が本当に信じているのは今日、世界で起こっていることを前にして、多くのクリスチャンが子供のような期待感の中で、こう尋ねているのです「主よ、まだですか?」「本当に悪くなってきています。主よ、早く来てください。」主が、この御言葉どのように私に教えさせようとしてされているのかを、尋ねたところ、希望のメッセージであるべきだと、示してくださいました特に神の民として、私たちが希望を持つ必要がある時があるとすれば、今がその時です。そしてその希望に関して、「どのように」ということです。私たちクリスチャンが、出発を待ち焦がれ、切に望み、見つめ、準備をする中で、"どのように"、また "何ができるか"ということ。以下は、教会携挙による最終目的地へ出発点に到着するまで、より良い言い方が見つかりませんが、私が推し進める「ビッグ3」と呼ぶものです。

最初のもは、6 節にあります。"アクセルを踏み続ける"です。車を使った例えを、お許してください。使徒パウロがここで言っていることは、非常に興味深いものです。いくつかの理由がありますが、その中でも特に重要なのは、"注ぎのささげ物となっています"という部分です注ぎのささげ物とは何でしょうか? 旧約聖書にも出てきますね。それは、燔祭の供え物の上に注がれたぶどう酒でした燔祭の供え物は、生贄で、主への完全な奉獻のためのものでした。そして、燔祭の供え物が主に献えられているとき、祭司は注ぎのささげ物を取り、燔祭の供え物の上に注ぐと、注ぎのささげ物は、文字通り蒸発してしまうのです。これが、パウロが言っていることです。「私は、完全に主に奉獻され、完全に、主のために注がれました。」こんなふうには言っていないですか? 「主のために、出し切りしました。何も残っていません。」彼がここで言っているのは、献身した身として、主によって、完全に消費されたということです。あえて言うならば、今の時代は、何のためらいもなく生きているということです。

この時点で最悪の事態です。「全力で前進する!」それがパウロが言っていることです。私の人生、私の

ミニストリーの全てがそうだった。完全に主に従い、主のためだけに人生を捧げてきたのだと。オズワルド・チェンバースの、あの有名な祈りの著書、『いと高き方のもとに』にあるように、「私のすべてを。主よ、私のすべてをお取りください。」私は、あなたの完全な注ぎのささげ物です。「あなたのお望み通りに私をお使いください。」さて、ここからがポイントですが、パウロは、人生の終焉に近いことを知っていて、この世から旅立つのも時間の問題だと思っていますパウロが、この手紙をテモテに書いた数日後から数週間後に、イエス・キリストの信仰のため首をはねられ、殉教したとの説もあります。彼はそれを示唆しています。私たちはこの章の後半で、それを見ることになります。裁判は不首尾でした。その日、パウロのために証言するはずの証人たちが、時刻になっても来なかったからです。パウロは一人で立ちました。裁判はうまくいかず、これで終わると分かっていた。彼は、「世を去る時」のことを言っているのですが、語では興味深い言葉で、錨を降ろす、または、テントを降ろすという意味を持っています。それは「解き放つ」こと、また「注ぎのささげ物」で言及されたように、「無くなって行く（蒸発する）」こと。パウロは、自分の出発まで時間が無いことは分かっています。しかし重要なことは、彼はしっかりやり通し、悔いがないことです。私が、牧師としてよく考えることは、大いなる最後の日、主が私に、「よくやった、忠実なしもべよ。」と仰ってくださいる時に、私の人生や牧師としての務めの中で、こう言われうる可能性があるの难道うかと考えます。「あなたは危険を避けて安全な道をとった。あなたは尻込みして、全力前進ではありませんでした。霊的奉仕のアクセルペダルから、足を離していました。」バリー・マグワイアさんが、光栄にもここへ来て話して下さったことがあります。彼は車人間、典型的な車大好き人間です。彼が、カーレースの世界の話をしてくれました。それがとても心に残っています。「絶対に上げるな」絶対に上げるな」というフレーズがあるそうです。なぜなら、カーレースで、ペダルを踏み込んでいて、恐怖心から、ペダルから足を離してしまうからです。その結果、レースに負けることになります。なんと素晴らしいクリスチャン人生のお手本でしょうか！ 全力疾走です。全速力で進むのです。もう一歩踏み込んでお話しします。それは長年に渡り、神が私の人生でなさったことを見てきた、私の個人的な経験です。神は、地上をくまなく見渡しておられます。主は預言者たちを通して、アサ王に語られたように、**歴代誌第二 16:9「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、**」神は何を探しておられるのでしょうか？ 主は、完全に献身する心を持った者を探しておられるのです。アクセルを踏み込み、主のために全速力で前進する者を。そしてそのような人を見つけられた時、主がどうされるか分かりますか？ 彼らの代わりにご自分が強くあられます。それは、預言者イザヤが言ったように、「主よ、私はここにいます、私を遣わしてください。」と言うようなものです。神がそのような人を見つけられたとき「よろしい。私を見なさい！ 私がやろうとしていることを見ていなさい！」「そうです、わたしがそれをするのです。あなたではありません。」「あなたは完全に私に献身し、完全に私に依存し、完全に私に頼るのです。自分の力ではありません。」「そうすれば、何だって可能です。ただ私に任せればいいのです。」ちなみにそれは最初の部分にすぎません。「私に任せなさい。そして、私の邪魔をしてはいけません。あなたの助けは要りません。」子供が小さいころ、私たちが助けたいと言ってくれるのは可愛くないですか？ うちの子たちが小さい頃を思い出します。「パパ、パパ、お手伝したいの〜」「ああ、なんて可愛いんだ。いいよ〜。」子どもが手伝わなければ、30分で出来たことが6、7時間もかかってしまうのですが、でも彼らはとても可愛いのです。「お手伝いしたい〜」同じことを、主に対してもしてしまうのですよね？「主のお手伝いをしたい！」という感じでそれは「私を手伝いたいのですか？それなら手伝わないでください。その方がずいぶん助かるから。」というような状況です昔の讚美歌をご存知ですか？私の好きな讚美歌の

一つです。"Have Thine Own Way, Lord" (ゆだねます主の手に) “ゆだねます 主の手に” “器なるわが身を” (あなたが陶芸家・私は粘土) 私はこの賛美歌が大好きです。”私があなたに全てを委ね、じっとしている間に、私を形作り上げて下さい。それが問題です。「じっとしていないといけないのですか?」「そうです。」「あなたの思い通りにされるのですか?」「はい。」「でも…」 「いえ、邪魔をしてはいけません。どいてください。」

ある牧師の交わりの場で、このことを話したことがあります。自分たちのミニストリーで、神がなさっておられることを分かち合いました。私の番が来た時、こんな感じでした。「主よ。私が本当に共有できることは一つだけです。それは、私があなたの邪魔をせず、あなたのなさりたいことをしていただく、ということ学び始めたということですそして、あなたが御霊の中で行われることに対して、私の肉の思いを提供しないようにする、ということです。あなたを手伝おうとはしません。主よ、ここはあなたの教会ですから。」

「イエス様、あなたはそのために死なれたのです。私がこの教会のために、あなたの民のために死んだのではありません。私は彼らのために血を流していません。これはあなたの教会です。」

「私には自分の意志や自分のやり方をあなたの教会に押し付ける権利はありません。ですから主よ、あなたの好きなようになさってください。」

ハンバーガーのCMみたいに聞こえますか? そうかもしれません。

2つ目です。7節にあります。アクセルペダルを踏み続けることに加えて、”最後まで戦い続ける”ことです。ここでパウロは、戦士と走者の例えを使っていますが、パウロの手紙の中ではよく出てきますよね。今回だけは、彼は今まさにゴールラインを超えようとしているので、過去形になっています。パウロにとっては、最終ラウンドの残り数秒、レースの最後の1フィートです。そして彼は全力を出し切っているのです競技のランナーたちが、ゴールテープに向かって前のめりになっているのを見たことがあるでしょう。それがパウロの状態です。言わばそれは、ホームストレッチ (最後の直線コース) です。あと一押し、走り込むだけの最終段階で、それがパウロのしたことです。さて、私はこの節がよく知られていて、頻繁に引用される聖句であることを認識しています。追悼式を行う際、主のもとに帰っていった人のために、この聖句について話すように頼まれることがよくあります。しかし、事実これこそがまさしくクリスチャン人生であるということです。お聞きください。それは戦いであり、 戦闘であり、残酷な戦いであり、過酷なレースです。ある人が言ったことが気に入ってます。「パウロは ”ダンスを踊りきった ”とは言わなかった。」違います。「私は戦いました。日々戦いました。」それは戦いです。戦闘なのです。このクリスチャン人生は、戦いの場であり、遊び場ではありません。悲しいことに、多くのクリスチャンは、私は、誰かを責めたいわけではありません。これは非難ではありませんが、聖霊からの必要な確信なのかもしれません。しかし多くのクリスチャンは、教会ごっこをしているだけです。ただのゲーム (遊び) なのです。彼らは本気ではありませんしかしこれは深刻なことです。預言・アップデート (第一礼拝) に参加した方はお分かりだと思いますが、手を上げてくださいますか? 何人の方がおられましたか? うわー、皆さんおられたのですね。素晴らしいです。ずっとおられたのですね? ワオ~! ちょっと聞いてもよろしいですか? 修辭的な質問なのはわかっていますが、真面目な質問です。現実的になってきていると思いませんか? 現実味を帯びてきていませんか? どうでしょう? こんな風に言えるならば、これは勝負の始まりです。深刻で、現実になって来ています。遊んでる場合じゃありません。時間がありません公平に考えれば、私たちの生きている世界で、クリスチャンが教会ごっこをしていることに対して、寛容

な時代があったのかもしれませんが。そういう時代はもう存在しません。そういう世界はもはや存在しません。因みに二度と戻りません。絶対にないでしょ。クリスチャン人生は残酷な戦いであり、過酷な競争です。とても重要なことなので、残りの時間を使って、3つ目のことを考えてみたいと思います。アクセルペダルを踏み込んだまま、ゴールまで戦い続け、“報酬から目を離さない”ことです。パウロが、彼に待ち受ける義の冠について言及するとき、私がどれほど誇張しても、その重要性を言い表すことはできません。ちなみに、これは非常に重要なことなので、お聞き逃さないようしてください。パウロは、さばき主を、“正しいさばき主”と言及していることに注目してください。このことが示唆するのは、正しい判断をしない“不義なさばき主”がいるということです。パウロが言っているのは、神は、正義のさばき主であるということです。主は公平で、公正であり、裁きに於いて正義である。そして全ての人は、自分の行いに応じて報酬を受けるのです。

私たちが今することは、永遠のために重要なのです。私がかこう言うのには理由があるので、注意して聞いてください。非常に重要なことですから皆さん、この地上での行動が、永遠のために重要であることを認識していますか？ 私たちの寿命は、携挙がなければ、(人生)70年、それ以上かもしれません話の都合上、70年としましょう。その大部分が、私たちの永遠全体を決定するのです。ですから、その間に何をするかは永遠のために重要なのです。カリフォルニアの大学に戻った息子と話をしていました。それはとてもいい会話でした。私たちは彼がしていることについて話しました。彼は一生懸命勉強しています。私たちは彼を誇りに思っています。でも息子は、携挙がいつでも起こり得ることを知っていますですから、こんな疑問が沸き起こったのです。「何の意味があるの？なぜこんなことをしているの？」「いや、理由があるんだよ、今やることが永遠のために大事なんだから。」「ああ、でも僕はただの学生だ。」「いやいや、そうじゃないんだよ。」考えてみて下さい。これが私の言いたいことです今の世では、取るに足らないと思われるようなことでも、神は、あなたの永遠の命のために準備してくださっているのです。何ですって？ちょっと待ってください。じゃあ、私は牧師でなくてもいいのでしょうか？ いいえ。事実そうでない方が、ずっと良いでしょう。なぜなら、牧師はもっと高い基準で裁かれるからです。私は何を言おうとしているのでしょうか。私が言おうとしているのは、神が...皆さん、私たちが永遠の中で何をするとお思いますか？ 私たちは働くことになることをご存知ですか？ 仕事は、呪われる前は祝福されていたのをご存知ですか？ 呪われる前は祝福されていたのです。私たちは仕事をするようになります。ああ、汗水流すようなものではありません。天国では、“やらなければいけない”というのではなく、“それができる”という、特権のようなものです。私たちは皆、神に似せて造られたのです。神の栄光のために、神の御国のために、永遠に。アーメン。

そして、あなたがこの地上で行うすべてのことは、永遠において、あなたが何をするかを決定するのです。「それは、永遠に大学生ってこと？」いやいや、そういう話じゃないのです。私が話しているのは、皆さんが持っている才能や賜物は、永遠に重要になるということです。ええ、でも私は牧師ではありませんし、伝道者でもありません。フルタイムのミニストリーで奉仕しているわけでもありません。ところで、それは誤称です。フルタイムや、パートタイムミニストリーなんてものはありません。ライフタイム・ミニストリーなのです。私たちはみんなミニストリーにいます。信者の聖職者なのです。それにお気づきでしたか？ 皆さんは、ミニストリーにいますよ！ そう、ここの座り心地の良い椅子に座っているだけでもです。因みに、この素敵な椅子とエアコン、ありがとうございます。しかし、皆さんはミニストリーにいますよ。神は、あなたをお使いになりたいと思っておられるし、あなたが神に任せる

なら、神はあなたを用いてくださるでしょう。宜しければ方向を変えて、私たちが待ち受ける報酬を楽しみにすることについて話したいと思います。楽しみにしても良いだけでなく、それは必須なのです。その意味を説明します。私たちはよく気高く、「私はただ主に仕えているだけですから。」と言いがちですが「王冠を手に入れた！報酬が待っている！天には宝を積んでいる！」といっても悪いことではありません。「そのためにやってるのですか？」頼みますよ。ここで私たちが話しているのは使徒パウロですよ。使徒パウロは、義の冠について話しています。それは、私たち自身の義ではありません。イザヤが言うように、

「私たち自身の義は、不潔な衣のようです。」(イザヤ 64:6 参照)

これは、キリストの罪のない義なのです。そして、それが彼が待ち望み、目を向けていることなのです。その報酬に目を向けていない人は、終えることができても、それは良い終わり方ではないでしょう。私を待ち受けていることを知っているからこそ、私は進み続けることができるのです。それは私は進み続けさせます。その報酬に目を向け続けてください。あれやこれを見ずに、そこから脱線しないでください。私がこれを学んだ時…これはおかしな事です。ふと思いついたのですが、これはもしかしたら聖霊かもしれない。駅伝をご存知ですか？走る人にとっては…私はやったことはありません。もちろんイエスの御名において、観覧席に座っていただけです。バトンを渡していく駅伝をご存じですね？コーチがランナーに言っているのを聞いたことがあります。「スタートしようとする時、前のランナーが走って近づいてきて自分の手にバトンが渡った時、後ろを振り返ってはいけません！」なぜなら、進む方向から目を離して振り返ってしまうと、レースに支障をきたすからです。そうでなくても最悪、ペースを落としてしまうのです。ここで当てはまることは何でしょうか？あえて言わせてもらおうと、私達は、その報酬に(the prize)目を向ける代わりに、他のもの(the other guys)に目を向けてしまうのです。韻を踏みました。私はこの人たちを見ていて…すみません、あなたたちのことではありません。私が言いたいことがお分かりですね？私は他の人のミニストーリーに目を向けているのです。彼らのやっていることを見ていて、主から目を離してしまいます。これはおそらく、最も愚かなことわざの一つですが、しかし、それは本当に真実です。"もし他人に目を向けるなら、あなたは動揺する。もし自分自身に目を向けるなら、あなたは落ち込む。もし主に目を向けるなら、あなたは祝福される。"本当に真実ですよ？それが、主が仰っていることです。「ただ私に目を向けていなさい。彼らを見てはいけません。彼らと自分を比べてはいけません。ペテロがヨハネについて尋ねようとした時、彼はこんな感じでした「主よ、どういうことですか？あなたは今ヨハネに仰いましたね。」そしてイエスは…私は厳しい口調のイエスを、想像できません。彼はとても穏やかに仰いました。「ペテロ、あなたに何の関りがありますか？」(ヨハネの福音書 21:21,22 参照)言い換えれば、「あなたには関係ないことです。なぜ彼を見るのですか？ただ私を見ていなさい。私から目を離さないでいなさい。」イザヤはこう語っています。

「志の堅固な者(心を主に向けている者)を、あなたは全き平安のうちに守られます。」(イザヤ 26:3)

天に積んできた宝物を考える時、ちなみに、マタイ 6 章ですが、私は、待ち受けている冠について考えます。ところで、これは使徒パウロに限ったことではありません。というのは、彼は非常に明白にこう示しているからです。

「テモテ、私に待ち受けている義の裁き主からの、義の栄冠は、私のためだけではなく、主の現れを慕い求めているすべての人のためです。」

(JD 牧師挙手) 私のことです！慕い求めている？それどころか待ちきれません！切に、彼の現れを熱望

しています！ 今、私がこれを指摘したのは、繰り返しますが、これが必須だからです。他に何と言って良いか分かりませんもっと強い言い方があるかもしれませんが、これは間違いなく必須です。使徒パウロのように、私たちがこう言えるようにです。「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終えました。私は完全に注ぎのささげ物となっています。主のためにすべてをささげました今、私の出発 / 携拳が、おお…！ 栄冠と報酬が私を待ち受けています。」

私達が希望を持つためには絶対にその報酬から目を離さないようにしなければなりません。なぜなら、それが私達を乗り越えさせてくれるからです私はさらに一步踏む込んで、締めくくる前に、こう言わせていただきます。数日、数週間先に、物事が今よりも無限に悪くなる可能性が非常に高いように思われます。私達がそれを乗り越えるための希望を持つためには主に目を向け続けなければなりません。それが唯一の方法です。第一コリント 9 章 24 節から 27 節で締めくくりたいと思いますここで使徒パウロは、彼が宣教を始めた当初、コリントの教会に彼の生涯の中での、最初の手紙を書いています。彼は実に、競争を走ること、競争を終えることの比喩を具体的に説明しています。24 節「競技場で走る人たちはみな走っても、賞を受けるのは一人だけだということを、あなたがたは知らないのですか。…」パウロは、こんにち私たちがオリンピックとして知っているものに関して言及していると考えられています。競技者がいて、これらの競技で走る選手がいます。そして、月桂冠を彼らに与える審判者がいますその文化、その時代に、頭に月桂冠を付けているのを見たことがありますか？それが彼らの冠でした。それは、花を買うようなものです。4 日間は咲きますが、それでおしまいです。パウロは実際にそのことを語っているのです。しかし、それが彼らが走る目的なのです。それが勝者に待ち受けている報酬なのです。それに由来する現代のオリンピックでは、審判団がありますが、ちなみに、これは”白い御座の裁き”ではなく、”裁きの御座”です。これは、キリストの裁きの御座です。それは、私達を裁いて罰するためではなく、オリンピックのように、私たちに報酬を与えるためです。神は、正義の審判者です。時々ある審判者たちは、不正にお金を受け取るかもしれません。なので、本当は勝つべきだった人が勝てず、不公平で不当なのです。ここに審判者、正義の審判者がおられますそして、私たちに、いわゆる金メダルを与えるのを待っておられます。それが裁きであり、それが報酬なのです。パウロはクリスチャンの人生をこの競争を走ることによって例えています。再度、それが競争というものです。競争にはランナーがいますしかし…「しかし」が来るのはご存じでしたか？ 一人だけが報酬を受け取れるのです。彼は何が言いたいのでしょうか？彼の要点はこれです。

24 節「…ですから、あなたがたも賞を得るように走りなさい。」

25 節「競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠（月桂冠）を受けるためにそうするのですが、（しかし）、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。」

これはある意味、一気に流れを変えませんか？ つまり、パウロはクリスチャンの人生を比較して、「彼らを見てみなさい。」と言っているのです。非難…、犠牲をご存じですか？ 犠牲です。私、非難と言いましたか？ それはまた別の機会に。厳格な訓練の中での犠牲。彼らは自分自身を制し、この厳しい訓練に入るのです。何のためにでしょうか？ 月桂冠。朽ちていく月桂樹の冠のために？ そのために、そこまで自らしようとするならば、私達は永遠に朽ちることのない冠のために、少なくともそれ以上のことをしようと思うのは当然ではないでしょうか？ クリスチャン人生の競争をどのように走るかによって、その冠が決まり、それは永遠に朽ちることがありません。永遠がどのくらい長いのかご存じですか？これは非常に深いですよ。それは永遠です。永遠に、永遠に続きます永遠について理解してみましょう。

こんな感じです。この人生の70年を寿命とすると…….....70兆年！ 待ってください。巻き戻してみましよう考えてみてください。7,000まで数えてみてください。わずか7,000です。さらに、巻き戻してみましよう。700まで数えてみてください。ああ…（あくび）、248くらいで興味がなくなります。それが700です。私達は約70年の話をしているのですさて、永遠のことを考えてみてください。時間概念はありません。時間を測るものがありません。一兆年といっても、私たちが生きている時間に換算すると1秒です。もし私が間違っていなければ、それを知るだけで自分の生き方が変わると思いませんか？

私の人生がつかの間であるように、ヤコブがこう語っています。それは霧であって、注ぎの捧げもののよう、それは蒸気のようにパッと消えていきます。（ヤコブ4:14 参照）

それが永遠と比較した、この地上でのあなたの人生です。こう言われています。

"またたく間に人生は過ぎ去る。キリストのためにしたことだけが残る。"ハッとしますよね？

パウロは続けてこう語っています。

26節「ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません。」

27節「むしろ、私は自分のからだを打ちたたいて服従させます。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。」

これは結構難しいです。彼は何を言いたいのでしょうか？ 彼が言っているのは、もし競技場にいるランナーが、一時的な冠のために、自分自身にそれを課し、自分を制し、この競争を走るために自分の体を打ち叩いて従わせるのであれば、自分は、永遠に朽ちない冠のためにどれだけ自分を律し、厳しい訓練に励み、この競争を走るべきなのかということです。報酬に目を向けて、待ち望むものがあることを知ること、どんなことがあっても乗り越えやすくなります。私の目を主に向け、永遠に目を向け、天の思いで溢れるのです。

マーク・トウェインだったと思います。確かに彼だったと確信があります。そして私は、彼のこの非常によく知られた格言に全く同意しません。彼はこう言いました。「あなたが天の思いで溢れるようになると、地上では何の役にも立たない。」私は、その逆が真実だと思います。あなたが天の思いで溢れば溢れるほど、地上での良い行いが増えていきます。この世の人生で何もしていないのは、天への思いを持っていない人たちではないでしょうか？ 彼らはもっと天への思いを持つ必要があります。これが最後の締めくくりです。まだ "最後に"とは言っていないですね。もうすぐ終わります。私と一緒に、よく考えて頂きたいのです。もしもあなたが知っていたら.....誰もその日もその時を知りませんがこれは完全に仮説ですが、聞いてください。もしあなたが、人生の残りがあと1週間と1日だと知ったなら？ その1週間...あなたならどうしますか？ ああ、待ってください！ まずは、自分に残り1週間と1日しかないというショックから立ち直らせてください。冗談でしょう？ いいえ、あなたには1週間と1日しかありません。どうしますか？ まず初めに、生命保険の更新を確認して、自分の身辺整理をします。そして誰それに電話をして、あれをして…さて、尋ねなければならない質問があります。 "なぜ、今それをしているのですか？"

「ああ、私はもっと時間があると思っていました。」おお、本当ですか？ それはパウロがここで説明しているものではありません。もう時間はありません。ラッパは、いつ鳴ってもおかしくありません。携挙が起こる前に、起こらなければならないことは、何もありません。怖がらせたいわけではありませんが、これが真実です。携挙の前に、死を迎える可能性も大いにありますし、そうなれば、ゲームオーバーです。だとすれば、あなたはどのような人生を生きていきますか？ どのように生きていきますか？ アクセルペダルを踏み、全速力で前進し、最後まで戦い抜き、報酬から目を離さない。私は、"それをやり遂げた

者だ。”と言われたいのですパウロが語ったように、私も言いたいのです。「私は走り切った！戦い抜いた！やった！やったぞ！私はゴールしたんだ！私の冠はどこ？私に月桂樹の冠のようなものを渡さないで下さい。ああ、私の冠はどこですか、永遠の冠は？」

「おお、ここに 있습니다。良くやった、良い忠実なしもべよ。」

お立ちください。祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。天のお父様、私たちはあなたに畏敬の念を抱きます。主よ、何よりもまず、キリスト・イエスにある永遠の命の贈り物と、私たちを待ち受ける報酬、私たちの冠に感謝します。

どうか 主よ、今日、聖霊が心の奥深くに自由に働いてくださり、私達が最後まで走り抜き、戦い抜くことから遠ざけているものがないかどうかを調べてください。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7